



長野県林業総合センター

塩尻市片丘 5739

Nagano-prefectural Forestry Research Center

TEL 0263-52-0600

FAX 0263-51-1311

## ナガチャコガネによる根の食害

キーワード：ナガチャコガネ、イチイ、樹勢衰弱、根系食害

「生け垣に植えられているイチイが衰弱してきた。根元を掘ると頭が茶色い白い幼虫がたくさんでてきた。どうすればいいか。」という相談が寄せられます。

これは「ナガチャコガネ」幼虫による根の食害が原因です。

### 1. ナガチャコガネによるイチイの根の食害

樹木へのコガネムシ幼虫による被害でよく知られているのは、造林用苗畑における苗木の食害です。中でも中信地域の「ナガチャコガネ」による被害は大きな問題となっています。

「ナガチャコガネ」幼虫は、イチイの根を好んで食害します。苗木の据え置き床、および生け垣などでイチイの根を幼虫に食害されると、梢から衰弱し、ひどい場合は枯損することもあります。

生け垣のイチイが梢から徐々に衰弱してきた場合、根の周辺を掘って体長 20～25 mm程度の白色のコガネムシ幼虫が見つかるか、細根がなくなっていれば、「ナガチャコガネ」による被害と判断できます。

### 2. ナガチャコガネの生態

「ナガチャコガネ」は光沢のある茶褐色のコガネムシ（体長：11～14 mm）で、6月上旬から7月上旬（最盛期6月下旬）にかけて発生します。成虫は日没直後の1～2時間に限って活動しますが、飛んでいる成虫はほとんどが雄で、雌は飛ばず、地表の草などにとまっています。



写真 ナガチャコガネ成虫と老熟幼虫

交尾した雌は、地中にもぐって産卵します。ふ化した幼虫は土壌中の腐植質などを食べて成長し、8月中旬以降に植物の根を食害し始めます。冬期は土壌が凍らない部分（地下 40～50cm）まで深くもぐって越冬し、翌春暖かくなると地表付近まであがってきて、蛹になるまで根の食害を繰り返します。なお、老熟した3齢幼虫は体長 20～23 mmになります。

### 3. 被害木の防除対策（イチイ）

「ナガチャコガネ」による被害からイチイを守るには、土壌中の幼虫の防除と、成虫の産卵を阻止するための成虫発生期の防除が考えられます。

幼虫に対しては、苗畑では一般には殺虫剤による防除を行いますが、イチイには登録農薬がないので、防除を行うことは難しいのが現状です。

成虫は、6月上旬から7月上旬（最盛期6月下旬）にかけて発生し、その活動時間は日没後1～2時間に限られます。そのため、成虫の活動時間に庭木、生け垣の根元周辺を見回り、飛び回る成虫を捕殺します。風のない蒸し暑いような日には成虫の活動が活発になるので特に注意します。

また、芝生は産卵場所となるので、コガネムシの増殖源にならないように注意が必要です。

担当者 育林部 岡田充弘
--------------